校長室だより

☆教育目標☆
自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
＜生活心得＞　時を守り　場を清め　礼を正す
令和元年11月８日発行　№14
富岡市立富岡中学校 校長　中村　喜雄

☆☆心のブレーキ・・・☆☆

当たり前のことですが、車にはブレーキがあります。ブレーキがあるから安心して一定程度のスピードが出せます。もし、ブレーキがなかったら、または、そのブレーキがきかなかったとしたら、交通ルールを守ることはおろか、安心して車を走らせることはできません。危険を感じてもそれを回避することはできません。安全に、人に迷惑をかけることなく走行するには、状況に応じてスピードをコントロールでき、いざという時に車を安全に止められるブレーキが、重要な役割を果たしているのです。

車にとっての重要な役割を果たしているブレーキと同じような働きをするもの、**“心のブレーキ”**とでも言えるものが、私たち人間の日常生活においても必要であると考えます。

では、最近の子どもたちに**“心のブレーキ”**は備わっているでしょうか。そして、その役割を果たせているでしょうか。残念ながら、胸をはってYESとは断言できない気がします。無意識の内に人の気持ちを踏みにじる言葉を発する、静かにするところでも友達と大きな声で話してしまう、我慢できず些細なことで頭にきてキレやすくなってしまう、面倒なことは避けて楽なことをしたがる、人に迷惑をかけても自分の思いどおりにしてしまう等、このような子どもがいるも事実です。幸い、本校にはこのような生徒は少ないと思いますが、正直、全くいないとは言えません。時や場に応じてそういう行動をとってしまうことを目にすることがあります。

生徒たちには、様々な誘惑に負けない強い心で、してはいけないことはどんなことがあっても決してしない**“心のブレーキ”**をきかせて自分をコントロールできる子であってほしいと思います。そして、**一人の人間として社会の一員として、時と場に応じて“心のブレーキ”を働かせる人になってほしい**と願います。そのために、本校では、自問活動を行っています。自問清掃や朝読書、移動時の行動をとおして、生徒たちが、今何をすべきか、どうすればより良い生活が送れるのかを自分自身に問い、しっかりと自分の考えをもてるようにしています。今の自分はこれで良いのかという自問を繰り返すことを日々行っています。そうすることで、何かあった時、ちょっと立ち止まって考える、自分のやろうとしていることがどういうことなのか判断しようとする心の余裕が生まれ、**“心のブレーキ”**を働かせることができるのではないでしょうか。そのためにも、本校の自問活動をさらに充実させていきたいと考えています。